



## 平成 27 年度 (第 45 回) 九州女子選手権競技

競技報告 (2015/5/27-28)

写真と記事 : M. Kikutake

### 田中瑞希 (グランドチャンピオン) が 逆転で 2 連覇達成

第 45 回九州女子選手権競技は 5 月 27、28 日の 2 日間、福岡県宗像市の玄海ゴルフクラブ (6432 ㌦、パー 72) で行われ、最終日の 28 日、ただ 1 人のアンダーパー 69 で回った熊本国府高 2 年、田中瑞希 (グランドチャンピオン) が、通算 2 アンダー、142 とし、逆転で優勝した。田中は九州女子選手権 2 連覇を達成。

なお、九州女子選手権で 2 連覇以上 (最高、三浦喜久子の 3 連覇) を達成したのは過去に 7 人。田中は 2004 年、2005 年に達成した青山加織 (熊本空港) 以来となる。

#### 田中は通算 2 アンダーの 142

#### 新垣比菜 (カヌチャ) は 1 打及ばず、涙

田中は初日、1 オーバー、73 で、首位の沖縄・興南高 2 年、新垣比菜 (カヌチャ) に 2 打差の 4 位発進だったが、最終日は 4 バーディー、1 ボギーと安定したラウンドで新垣を逆転した。

新垣は初日、ただ 1 人のアンダーパー 71 で単独首位に立ち、2 年ぶりの優勝へ向け好スタートを切った。しかし、最終日の前半に 2 ボギー、1 ダブルボギーと乱れ、後半 4 バーディーとチャージしたものの、取り戻せず、1 打及ばなかった。

通算 2 オーバー、146 の 3 位は福岡・沖学園卒、井上沙紀 (筑紫ヶ丘) で、さらに 3 打差、149 の 4 位タイに大分高 3 年、但馬友 (大分) と山梨学院大 1 年、山内日菜子 (宮崎レイクサイド) の 2 人。

今大会には 10 歳の小学生から 62 歳のシニアまで、182 人 (欠場 6 人) が参加。初日は気温が 28 度を超える暑さの戦いとなったが、80 位タイまでの 94 人が決勝ラウンドへ進出。最終日は曇天で微風の好コンディションの下での戦いとなったものの、グリーンの厳しいアンジュレーションと速さに苦戦する選手が多く、通算でアンダーパーをマークしたのは 2 人だけだった。

#### 日本女子アマは 22 人が出場権獲得

この試合の結果、13 位タイまでの 14 人と、15 位タイの 9 人のうち、マッチングスコアカーで方式で選抜された 8 人の計 22 人 (シード 1 人含む) が第 57 回日本女子アマチュア選手権 (6 月 23~27 日、北海道、札幌 G C 輪厚コース) への出場権を得た。





## V1が自信になり、V2の田中瑞希

### 「自分に納得のいくゴルフ」で8人目の連覇達成

優勝争いは最終組の新垣比菜と、1つ前の組の田中瑞希に絞られてはいたが、その行方は混とんとしていた。前半、新垣は4オーバーと乱れたかと思うと、後半は4バーディーとチャージ。田中は前半1バーディー



で新垣に逆転3打差をつけて折り返していたが、新垣のバーディーラッシュに14番で並ばれ、15番で取ると16番で取り返され、とマッチレースのようになっていた。

決着がついたのは最終18番だった。2打をグリーン左のラフに運んでいた田中は、「ラインのイメージ通り打てた」とこれをチップイン、1打差をつけてホールアウトした。

一方、最終組の新垣は約2mの下りフックラインが残る難しい位置だった。しかし、バーディーパットは外れ、万事休した。くっきりと明暗が分かれた最終ホールになった。

「後ろの組のスコアはわからないんだし、優勝なんて考えていなかった。納得のいくプレーで、パープレーを目指した」と田中は言う。

この日はアイアンショットが好調で、「ピンをデッドに狙っていけて、ボールを止められるようになったのが大きかった」。例えば前半は9ホール中7ホールでパーオンを達成。無心に自分のゴルフを求めた田中の活躍を、ショットの切れが支えていたのだ。

昨年は、連覇を狙う新垣のほか、プロツアーで優勝したばかりの勝みなみ（鹿児島高）、当時JGAナショナルメンバーの篠原真里亜（湯布院）といった強豪がそろい、多くのマスコミ注視の中でのラウンド

になった。

そんななかで、伏兵的に抜け出して優勝をさらったのが田中だったが、「あの優勝でその後のゴルフに自信がついた」と振り返る。

そして、自らの力で勝ち取った栄冠。2年連続でその名がカップに刻まれることになった田中瑞希は、過去に連覇を達成した先輩の名を聞き、「すごいことですね。（いずれは）私もあの中に加わりたい」とほおを紅潮させた。

その名は平瀬真由美、不動裕理、大山志保、青山加織…。将来はプロ志望の田中。そんな名誉を背負っての2度目の日本女子アマの目標は「ベスト8」。今夏の九州ジュニアは、地区選考会の取りこぼしで出場権がないだけに、賭ける気持ちは強かった。